

教えて！先生 日本人形の衣裳に迫る

第9回 文様の種類

松井幸生さん
株式会社善勤商店社長
Matsui Yukio

金襴織物・裂地の製造卸商を営む。菅田屋勤兵衛から数えて13代目。京人形商工業協同組合副理事長。平成12年伝統的工芸品産業審議会臨時委員任命。翌年、伝統的工芸品産業の奨励賞を受賞した。



日本人形の衣裳にとことん迫る本企画。人形の衣裳に使われている文様や生地はもちろん、着せ方についても詳しく解説していきます。業界のスペシャリストを講師に迎え、衣裳の基礎から応用まで教えていただきます。知識の習得や再確認、セールストークにお役立てください！
ちよっとお休みが続きましたが再開！第9回は「文様の種類」について解説します。

「ご存じですか？」にんぎょう日本」は毎月発行から、隔月発行に変更になったらしいですよ。何があったんですかね。いろいろ大変そうですね……。おかげでこの連載も久しぶりの掲載となりました。松井先生、お元気でしたでしょうか。

松井さん 本業はもちろん忙しくしていますが、団体の総会や会合に出席する必要があり、動き回っていました。連載が久しぶりに再開すると聞いて、今日はいろいろと資料を持ってきました。

「ありがとうございます。今回のテーマを何にするかも大切な議題なのですが、今後どういった方向に舵を切っていくのかも大切だと思っています。私は文様について

ももっと詳しく調べて解説しているのがあるのではないかと思っています。どうでしょうか？

松井さん 文様は奥が深く、知りだすとしてもおもしろい世界です。テーマとしてはよいのではありませんでしょうか。お人形の衣裳に使われている文様はぎょうさんあります。ですから、取材に行かれてよく見るものはもちろん、あまり見かけない文様など、気になるものはすべて調べるくらいの勢いでスタートしてもいいかもしれませんね。

さまざまな文様を知る

文様の分類は大きく、正倉院文様／有職文様／名物裂文様／能衣装文様に分けることができます。

▼正倉院文様

とりわけ、正倉院文様が他の文様に与えた影響は大きいと考えられています。

まず正倉院とは何か。奈良県奈良市にある東大寺大仏殿にある正倉のこと。大規模な校倉造りで、北北西に位置する。現在、宮内庁の管理下にある正倉院事務所が管理をしており、奈良時代を代表する宝が保管されている。

聖武天皇の崩御された四十九日のあと、「天皇が使っていた物を仏にささげよう」と光明皇后が取めたのが始まりとされている。宝の9割以上が日本産だが、西アジア、ペルシャ、中国からの舶来品もある。

松井さん 保管されている宝物の

す。まさにシルクロードから来た文様なのです。

「正倉院文様は高級ブランドのような雰囲気も持ち合わせていると感じます。

松井さん エキゾチックな様子もあります。手間のかかる製造技術と緻密な出来上がり、色の退色加減や劣化の度合いも魅力的で、それが高価に見える理由の一つではないかと感じています。

▼有職文様

はじめに正倉院文様を説明したのは、有職文様には正倉院文様が使われているため。鴛鴦文様や鳳凰文様、唐草文様、散雲文様などがある。

その名の通り、有職文様は「有職故実」に基づいて使用されてきた文様である。「有職故実」とは平安時代より朝廷や公家社会における、衣食住の決まり事をさす。この有職文様は衣類や調度品に用いられている。

日本独自の有職文様は、中国、韓国からもたらされた制度や慣習、行事などを日本独自に和的化（倭的化）することにより、生み出された。

有職文様は写実的ではなく、デ

ザイン性が高い文様が多い。正倉院文様をより簡素にデザイン化したものもある。

松井さん お人形の衣裳にもよく採用されるのが有職文様です。

「展示会などの取材でよく見かけます。いろいろな組み合わせでできている印象を持っていたのですが、正倉院文様がもともと持っている点に合点しました。

松井さん 取り入れているからこそ似ているものがあるため、文様を見ただけで、それが〇〇文様と判断できる人は少ないと思います。「この文様は何ですか？」といった質問をいただくことがあります。「もともと正倉院文様です。有職文様です」とお答えすることもあります。

柄だけではなく、色合いも特徴の一つなのですが、どう感じますか？

「確かに、そう言われてみると、正倉院文様にはない色彩感覚がある気がします。退色具合と文様が相まって高価な雰囲気を出している正倉院文様とは異なり、有職文様は煌びやかで豪華なイメージです。両者とも「高見え！」はしているわけですが、違う魅力がありますね。

松井さん 有職文様は日本の高い文化程度を表現しています。地位や階級により着る色が決められているなか、十二単や御袍の文様や色合いを見ると分かるといいます

が、レベルの高い文化が独自に進化してきた文様なのです。色彩については、素晴らしい感性で熟成されてきた賜物だと感じます。四季の移ろいの中で、風や川の流れ、花の色、鳥のさえずりを歌にします。文様に限らず、衣裳の色や襲の色を組み合わせることで表現しているのです。

以下に正倉院文様、もともと正倉院文様であった文様などの画像を並べてみました。もちろん、これらは一部の文様です。

松井先生、あつという間にお時間が来てしまいました。次号で名物裂文様、能衣装文様についてお話を伺おうと思います。

引き続き、お世話になります。が、どうぞよろしく願いたいいたします。



能装束文様
(雲に源氏車)



もともとは正倉院文様の
樹下鸚哥 (じゅかいんこ)



正倉院文様・唐草のイメージ
宝相華 (ほうそうげ)

松井さん ありがとうございます。よろしくお願いたします。

種類は実にさまざま。染織品をはじめ、絵画、刀剣、陶器、楽器などもありました。また漢方薬は60種あったとされ、現存するものは今も薬効があるとされます。その時代の最高品質を誇る舶来品と、日本国内の最高技術を用いて作られたものが多いです。

「薬もあつたんですか？ 驚きです。正倉院にあつたものが、文様になるというのはどういうことでしょうか？」

松井さん 正倉院の御物から取材した文様を正倉院文様と言います。文様となる題材は、植物でいうと忍冬文（スイカズラの葛唐草）、ぶどう文があり、鳥獣のくくりでは鹿、ライオン、獅子、龍、鳳凰、孔雀、鴨、オウムがありま

参考文献

・八條忠基著『平安文様素材CD-ROM』（株）マール社、2009年）
・八條忠基著『有職装束大全』（シナノ書籍印刷株）、2018年）

画像提供／善勤商店